

第1章 考古学における年代決定のしくみ

当館では、一般の方々へ向けた展示解説や講演会を、月に2、3回程度開催しています。そこで頻繁にいただく質問の1つに、「この資料はいつごろ作られたのか」というものがあります。「およそ5世紀後半です」や「古墳時代後期ごろです」と応じると、半数ほどのお客様は納得してくれるのですが、もう半分の方は、まだ疑問が残っているような表情をされます。おそらくは、「どのようにそれが分かるのか」、「もう少し厳密に「〇〇年」ということが分からないのか」という思いがあるのではないのでしょうか。

本展では、こうした疑問にお答えすべく、考古学において、遺物の年代はどのように決まっているのかを解説した後、年代の「定点」となっている資料を紹介します。それによって、弥生時代の終わりから奈良時代にかかる約500年間のタイムスケールを描き出します。まずこの章では、資料の新古を相対的に決定する手法と、それらの資料に「〇〇年」という絶対的な年代を与えていく手法を解説していきます。